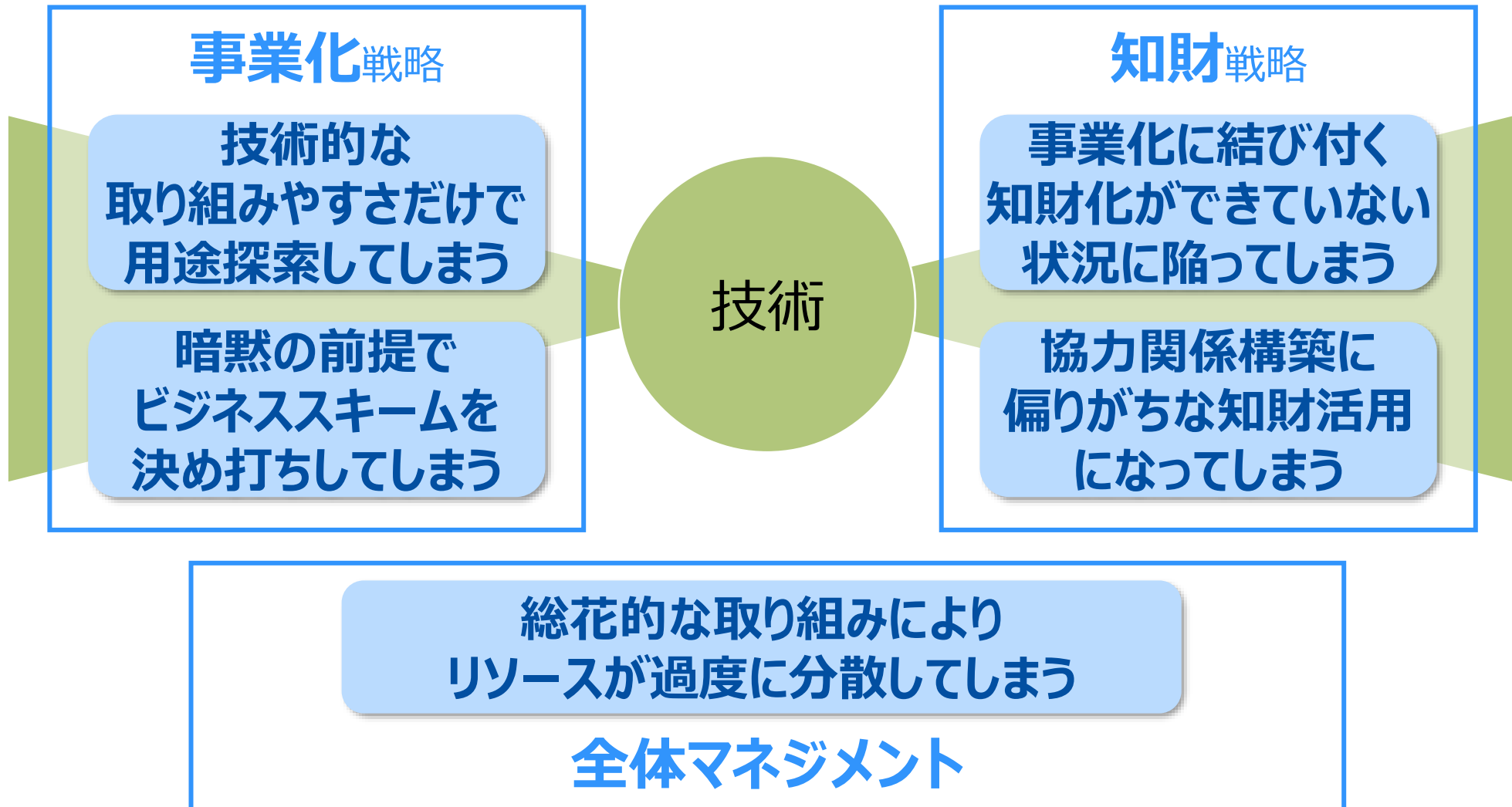


# 技術を活かした事業創出時の落とし穴

過去の支援事業を踏まえると、「事業」「知財」「全体マネジメント」の観点で共通的な落とし穴が散見された



事業化戦略では、下記の課題に陥りがち・・・

**技術的な  
取り組みやすさだけで  
用途探索してしまう**

思い付きの用途に  
飛びついてしまう

分かりやすい  
長期的な用途仮説だけに  
注目してしまう



**暗黙の前提で  
ビジネススキームを  
決め打ちしてしまう**

付き合いのある企業との協業が  
暗黙の前提となってしまう

業界構造を踏まえた  
事業拡大の可能性まで  
考慮できていない

知財戦略では、下記の課題に陥りがち・・・

**事業化に結び付く  
知財化ができていない  
状況に陥ってしまう**

知財化してみたものの  
事業化に繋がらない

時期に後れて  
知財化するタイミングを  
逃してしまった



**協力関係構築に  
偏りがちな知財活用  
になってしまう**

ライセンスしたものの  
その後の展開の障害  
になってしまった

継続的な研究開発  
に繋がるマネタイズに  
至っていない

全体マネジメントでは、下記の課題に陥りがち・・・

## 総花的な取り組みにより リソースが過度に分散してしまう

複数テーマに取り組むが、  
「全部均等に重要」としがち

複数テーマ間の  
時間軸的シナリオを考慮せず、  
投入リソースが散逸化しがち



地域の関係者調整を経て、  
「あれもこれも」と加えがち

複数テーマ間での  
大玉化の絵が描けておらず、  
引き合いベースで  
とりあえず広げてしまう